

NAZCA corporation

安全データシート

作成日 平成 27 年 4 月 30 日

発行日 平成 27 年 10 月 27 日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名

表面改質剤 CS1-A

安全データシート作成者の詳細

会社名

： 株式会社 NAZCA
東京都台東区浅草橋二丁目 23-8

電話番号

： 03-6240-9876

FAX :

： 03-6240-9019

推奨用途及び使用上の制限

： アルコール事業法適用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分 2

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分 2B

発がん性 : 区分 1A

生殖毒性 : 区分 1A

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 3 (気道刺激性)

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 3 (麻酔作用)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分 1 (肝臓)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分 2 (中枢神経)

(注) 記載なき GHS 分類区分 : 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

注意書きも含む GHS ラベ要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性の高い液体及び蒸気

眼刺激

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

注意書き

安全対策

熱/火花/裸火/高温などの着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
保護手袋及び保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。

応急処置

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
火災の場合：指定された消火剤を使用すること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
物理的及び化学的危険性非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質

成分	含有量 (wt%)	CAS 番号	
アルコール系溶剤	100%	企業秘	既存化学物質

4. 応急処置

必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

めまいなどの症状がひどい場合は直ちに医療処置を受ける。

必要な場合は酸素吸入又は人口呼吸を行う。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服と靴を脱ぐ。製品にふれた部分を多量の水または微温湯を流しながら洗う。気分が悪い時は医師に連絡する。症状が持続する場合は医師の診断、手当を受ける。

眼に入った場合

清浄な水で15分以上よく洗浄する。コンタクトレンズを着用していて用意に外せる場合は外すこと、その後も洗浄を続ける。目の刺激が続く場合は医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。口を水ですすぐ。意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。
直ちに医療処置を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

技術的対策

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
スパークを生ずる道具を使用しない。

局所排気・全体換気

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、換気に注意する。

安全な取扱いのための予防措置

蒸気や噴霧の吸い込みを避けること。容器はその都度閉栓する。作業中は帯電防止型の作業着、靴を使用する。

発火源から離しておくー禁煙。静電気の蓄積を防止する手段を講じる。

保管条件

消防法上貯蔵設備で保管し、通風を良くし蒸気が滞留しないように保管する。
不燃性の機密容器にて、温度、湿度、遮光に注意して冷所に保管。直射日光をさける。容器を密閉し、火気・熱源から遠ざけ乾燥した換気の良い場所に保管する。一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。

容器梱包材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定なし

許容濃度

1000ppm (TLV-TWA) : ACGIH

設備対策

静電気対策のため装置等は設置し、電気機器類は防爆型を使用する。

排気装置を設置し、蒸気が滞留しないようにする。

取り扱い場所の周囲には高温、発火元となるものを設置しない。

保護具

呼吸器の保護具

密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

耐化学薬品性で不浸透性保護手袋を着用する。

目の保護具

保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

ゴム前掛け、作業用保護衣及び長靴などを、作業性及び暴露性を考慮して選択し着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基礎物理および化学特性の情報

a) 外観	形状：透明，液体 色：無色
b) 臭い	特有の芳香
d) pH	特定の数値を有しな し
e) 融点・凝固点	融点：-114.5℃ 凝固点：データなし
f) 沸点，初留点及び沸騰範囲	沸点：79.45℃ 初留点及び沸騰範囲：データなし
g) 引火点	15 ° C（密閉）／20℃（開放）
j) 引火上限/下限	上限：19.0vol%
k) 蒸気圧	5.878Pa（20℃）
l) 蒸気密度	1.59
m) 比重（密度）	0.799 g/cm3 at 15℃
n) 水溶性	水と混和する
o) n-オクタノール／水分配係数	-0.3
p) 自然発火温度	発火点：441℃
q) 分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

通常の取り扱いにおいて安定である。

化学的安定性

データなし

危険有害反応可能性

硝酸、硝酸銀、硫酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの
強酸化剤と激しく反応し、火災や暴露の危険をもたらす。

避けるべき条件

静電放電、衝撃、振動、熱、炎、火花。 高温への暴露。

混触危険物質

強酸化剤、次亜塩素酸カリウム、アンモニア

危険有害な分解生成物

一酸化炭素

11. 有害情報

毒性情報

急性毒性

ラット 経口	LD50 6.2-15g/kg
ウサギ 経皮	LDLo 20000mg/kg
ラット 吸入（蒸気）	LD50 63000ppm/3h
ラット 吸入（ミスト）	データなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

刺激性なし（区分外）

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギを用いた Draize 試験において中程度の刺激性と評価（区分 2 B）

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

ラットおよびマウスを用いた経口投与による優性致死率試験において陽性結果（区分 1 B）

発がん性

ACGH は、ヒト職業暴露における疫学調査データはない。IARC はヒトにおける嗜好的習慣的な摂取のデータである。（分類できない）

生殖毒性

アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

特定標的臓器毒性、全身毒性 - 単回ばく露

ヒトでエタノール経口摂取により中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合は死に至ることがある。呼吸器への刺激のおそれ、眠気めまいのおそれ（区分 1）

特定標的臓器毒性、全身毒性 - 反復ばく露

ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的器官は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る。

長期または反復暴露による臓器（肝臓）の障害（区分 1）アルコール中毒患者の禁断症状（振戦症状、てんかん、精神錯乱）長期または反復暴露による臓器（神経）の障害のおそれ（区分 2）

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報**生態毒性**

魚類（ファットヘッドミノー）の 96 時間 LC50=100mg/L

甲殻類（ネコゼミジンコ）の 48 時間 LC50=5012mg/L

藻類（クロレラ）の 96 時間 EC50=1000mg/L

残留性・分解性

理論酸素要求量：2.10mg/L

BOD₅：0.93～1.67mg/L

COD：1.99～2.11mg/L

生体蓄積性

データなし

土壌中の移動性

データなし

他の有害影響

漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので、地面、排水溝、河川、湖沼等に直接流入しないようにする。

13. 廃棄上の注意**廃棄物処理方法**

引火性液体に関する注意事項のほか、廃棄物処理の関係法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこへ委託して処理する。処理を委託する場合は、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。焼却処理をする場合は、珪藻土等に収着させて焼却炉で少量ずつ焼却するか、もしくは焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。

汚染容器及び包装

引火性液体に関する注意事項のほか、廃棄物処理の関係法規に基づき処理する。

14. 輸送上の注意

国連番号

ADR/RID（陸上規制）： 2987 IMDG（海上規制）： 2987 IATA（航空規制）： 2987

陸上規制情報

国際規制に同じ

海上規制情報（IMDG） クラス 3 等級 II, III

航空規制情報（ICAO, IATA） クラス 3 等級 II PCA353 Y341 CA0364
等級 III PCA355 Y344 CA0366

国内規制

陸上規制情報（陸上輸送）： 消防法 第2条危険物第4類アルコ（400L）
労働安全衛生法 施行令別表第1危険物（引火性の物）
施行令第18条の2〔名称等を通知すべき危険物及び有害物
（MSDS 対象物質）〕

海上規制情報（海上輸送）： 船舶安全法 危規則第2条危険物等級3引火性液体類（正3容器等級2,3）
港則法 施行規則第12条危険物（引火性液体類）

航空規制情報（航空輸送）： 航空法 施行規則第194条危険物引火性液体（G級2,3）

輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）： 8 IMDG（海上規制）： 8 IATA（航空規制）： 8

容器等級

ADR/RID（陸上規制）： II IMDG（海上規制）： II IATA（航空規制）： II

環境危険有害性

特別の安全対策

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項のほか、消防法により第1類及び第6類との混載禁止

15. 適用法令

適用法令

アルコール事業法

消防法

第2危険物第4類アルコール類（400L）

毒物及び劇物取締法：非該当

労働安全衛生法

施行令別表1危険物（引火性の物）

施行令第18条の2〔名称等を通知すべき危険物及び有害物（MSDS 対象物質）〕

パーゼル法

第2条特定有害廃棄物（1重量%以上を含む）

海洋汚染防止法

施行令別表第1有害である物質（Z類）

外為法

輸出令別表第2の35の2項（1重量%以上を含む廃棄物）

16. その他の情報

詳細情報

Copyright 2015 NAZCA Corporationにより、社内限定使用以外の本書の複製を禁じています。

本 SDS は自社 SDS データベース並びに各種の出版されている情報、文献などに基づいて作成されていますが、すべての情報を網羅しているわけではありません。従って、本情報は化学物質の安全性の指標としてのみご使用ください。また、本 SDS の記載内容は情報提供を目的としており、当該化学物質の取り

扱い 上のいかなる保証をなすものではありません。